シドン連爆

ルドン来意ご派れば廿日ドイツ空 九死に一生四日同盟。 中 九死に一生四日同盟。 中

本部道兵监督官、属十七年八月子 補金器地方海軍人事能課長、同十 六年十月十五日初遊園艦敵本節遇

日補贈が浦海軍航空隊司令 秋山門造少將 原籍者

等 | 四級三級部沖田村、現住的場合宮 | 和金級地方海軍人美田郡谷 (年) 医糖胺人族,大正三年二十二十二十二日加羅斯縣 (年) 日籍氏语教卒族,同四年二十二十二 月 十三日北海郡少城,同六年二十三 十三日北海郡少城,同六年二十三 本部湖北縣教旨。 四十七四 1 日田東京軍工職總務部長。 四十七四 1 日田東京軍工職總務部長。 四十七四 1 日北海軍中尉、同六年二十三 1 田東京軍工職總務部長。

日御奥彩華工歌戲務部長、阿丁子

ても敵のクエゼリン環構攻略が如じてあるが、この一事をもつてし

えば、魔は一日最適五学トン、 機として干職不識の光产を放つも

を記し、一つ 際、数階級に選進すとの烈々を 一個はその息烈に膨立。

一得よう、しかもわが解兵は終始帝 一意を被職滅に燃え上らせて が、一意を被職滅に燃え上らせて 月三日朝には『王孫正

流列な反應と週週

今こそ就後一願は六千五百の忠 称に依いてこそ、われくはクエ は身近に辿りつくめる、

馬士の英槻と置いねばならない 七生生品 想

はあるかがいなどがは 別に近下した西域間に 更との肉質戦を嫌ふ米

れば物館による攻然 に選するといけ と場合した

へ方を加質に示すもの 響を行うた』と報じてゐる

に失う一月卅一日午前九時十分を「に向ったが、日本節元別がの数数はなってに至極化する米減の下」の指揮する米四種兵権が戦力といい。 が関ならびに至極化する派域の下」の指揮する米四種兵権が戦力といい。 いまのに、対しているが、日本節にが関いているルゴートンコミット

丘幌が湯屋一方クエゼリン壊離南で午後に至り、ルオツト附近に海

を三け祖信の死陽者を出した。次

蒙古軍に實詞

共匪蠢動粉碎

| | (職務口廿五日同盟) 寛奈の濃環 | (職家口廿五日同盟) 寛奈の濃璃 を元封するというに平北海豚の織ける共産肥準に対し、その鑑

等モ出來マス オダン (一ケ五十年) 各有名食製

店支

齢ヲ作ランス ヨウカ 一通門大南昌中府成是 城京産物藤加

(刊日)

と激闘・八日間

Щ 田

遒

行

少

Щ

FJ.

造

少 將

何に歌ぶなものであったかを知り

萬四

三日に引継ぎ廿四日夜またく大学 智局はドイツ空軍軍機艦機隊が廿

プロのロンドン大劇楽に際して懐難コットン大劇楽に際して懐難コンドン大劇楽に際して懐難コンドン大劇楽に際しては

官は海軍少將秋山門 多大の損害を與へたる後一月六日最後の突撃を敢行全員壯烈なる戦死を遂げたり 『ルオツト』島守備部隊指揮官は海軍少將山田道行にして『クエゼリン』島守備部隊指揮 造なり 一千名も亦守備部隊に協力獲職

る砲爆撃下之と激戦を交へ一月一日敵約一個師團の上陸を見るや之を邀撃し勇戦循翩敵に守備せし約四千五百名の帝國陸海軍部隊は一月二千日以降來襲せる敵大機動部隊の熾烈な天然管験家(昭和十九年一月二千五日十六時)『クエゼリン』島並に『ルオツト』島を

弾丸盡きれば肉

嬋

7-ALT

際は嵯峨的に虚勢な兵力を信するル諸節クエゼリン環礁の皇軍守備

スポン廿五日同盟」マーシャ

钞

奮戰

島

息トールヤー

大野上医部隊を選載これと多大の 選索を戦くて全員などしたが、数 で表急を基本学師隊の泉間の所

大和武士の真髄發揮

量を反應し難けたのであった

ること難に八日間、一百六日

島川江7

敵に與へたる損害多大

なは兩島に於て軍腦約一

音 初正彦大

少佐に進級、功四級を賜る 尉戰

二、一月六日附左の迪り進級せしめられたりの激戦において壯烈なる戦死を遂げたりの激戦において壯烈なる戦死を遂げたりの激戦において壯烈なる戦死を遂げたり 任海軍少佐 大東亞戦争死歿者行實(標準)を定職日午後四時質問題から演奏した 【東京電話】毘吉澤りでは南方第一級の激戦地に比別医学の意死を遂げた 海軍大尉 侯 震 日

彦

腊魯方面部隊参謀をりし海軍少佐

海運省公表によりマーシャル 微國民の胸を打つたのである 萬

鬼神を主契かしむる最期を明かに

郷州護将の御権と歌つた、立五日

受職者に強く、子の市職はつめた一般前の力後就職職と無効な数部動態の心と集めて四手五首の顕常郎、最前者と氏戦をな分えぬ戦闘機クエヤシン、ルギットの陣場を置く強い戦を加へた

- 計画地域は関連を含みたは極度機 この個クエゼンン本土に含いて機能の小道域機能と 通常ないないでは、 1 100円のエゼンン本土に含いてした。 1 100円のエゼンン本土に含いてした。 1 100円のエゼンン本土に含いてした。 1 100円のエゼンン本土に含いてした。 1 100円のエゼン・1 100

世華行少解、クエをリン際に定い ・ とは指揮官数は円道少路以下全員 ・ 大は指揮官数は円道少路以下全員 ・ 大は指揮官数は円道少路以下全員 ・ 大は指揮官数は円道少路以下を ・ 大き

功五級 侯海軍少佐勲 Œ

賜木盃一組統功四級授金鵄勳章

羽

◎機動部隊をもつてマーシャル語

欧米は去る一月卅日未明有力な

死を遂げたことを知り、 正産院も最後の突撃に比然な

州・斷じて護持

佐少 彦 正 羽 曾

分隊長、後同副党長兼分隊長となる
一月仕太尉、昭和十五年十一月陸関
年十一月赤城分隊長、昭和十四年十

震域に逐攻、わが基地に對一大 帰田藤 帝國海軍は意氣軒昂

候解の態売もありまして、われがあります、特にこの度は営物 があります、時にこの度は登る 局の鉱物は極めて迅速はつ音響。しまして側々腕を打たるくるの でありますが、最近における観 烈に感ふべく意味地し、各員の 

今や敵光の主力はその至力を

の限るく会自己の家に関し、わの限るく会自己の家になれたはが同じすべきかをよく皆で、からはが同じすべきかをよく皆で、ないでは、おいいのでは、おいいのでは、おいいのでは、おいいのでは、ないのでは、ないのでは、 との歌いを勝ち扱かんことを切 もつて島國一丸となって

これを解剖に死守せざるべからては、以上

あります、故に神州を取得し前

期してゐるものであります

プリンツ。チールケ豚 へれパハター紙は甘四一・

何とぞ國民諸君におかれます

達せる近代版の性質より数すれるりますけれども、航空機の最

は今やすでに彼後國籍を接せり

職なる必然信息の下、 高全の避婚を整へ、全軍結束数

个は好機待つ

功績を置した

財協の粉俗に領別は上の成果を選供能の粉俗に領別は上の成果を選

震戦に出動すること十一回に及びこの回出拠点権に変かと認定、民党のは関連に変かと認定、民党に、関係の退快、関係の退快、関係の退快、大学の政策の政治、関係の政策に対している。

と誓はん

**今年**こそ

パピリオクルー

日まで約一ケ月半にわたり、前代の職職西阪僧に巡転、同年士二月廿

決勝の年

郷郷原は昨年十月上世紀に省延を指てわが再出来記よび図古政 変でおけばい

似品プリ富士屋ニ御注意

獨紙、米の猪突を衝く

といふも敢て過言ではないので

との協同をいよいよる語でした

手として関び致かんことを聞く

ざること火を見るより何かであ、一分に削慢祭せられ、島國際管

ベルトの下にかつて陸重程官を盗問盟。ニューヨーク來館=ルーズ 馬へ阻止運動ン共四日ルーズ四期出しい人が 機到外を待つてきへ

めたロッドリングはルーズベルズ

とり猛烈な運動を展開することが猛烈な運動を展出するため至来

する線线、傾着問題は殆ど解決する線が、気がな大平洋地域に数 結核に弱體に

大阪市東區道修町一 栗曜 一ケ月分五國計學

際が來搬するや歐然起つてこれに に離へ來つた問島将足は、敵大部場然その配面を守つて敵上陸作戦 した、敵のギル 月にわたる敵空軍の猛魔に耐 日末明以降戦闘、巡洋艦などと **岩相力なる壁跡の砲撃の極寒** 島に約一大師随の兵力を制墜

#### 頭 挺身御 本日大本盛級表ならびに海軍っつがにタラア、 垂範 衛公表にありました弾り二月六

を発けられましたが、さるとは

影響は測に基大震烈なるものがにして、その気後内外に及ぼす 子連の彼方とおいて行なれるこ

のかります、特別無理は高級利 この大阪を巡へ男派牧闘中

大学一月廿二日御紀別中であつた。 日本十一月十七日海兵和卒家ととも

大見相とともに同期生の中心と 大見相とともに同期生の中心と 大見相とともに同期生の中心と

況戰間週支全 へ、その鑑明を 攻離は酸々難烈を 新經路過 (二月廿五日魏表)

るとともに多大の

消 息...

田豊民 (朝鮮協業財産) 月 廿四日公の訂遊で次の 戰 決 出土



その影響を埋くべきことは、國民 総する忠誠心と戦闘力とが、よく攻に對し、わが陸瀬が長の宮路を

ひとしく信じてゐたところである

ラファが必要に敬義する必然がある。 るにせよ、今にして嫉悪し、一切を離こそ、アツツ路、マキン、タ る一週一派は我が続き、ころである。 もくり 原心におけ

あ続いた。今や日米は國頭を取りとなば法がなっている。今や日米は國頭を取り

部隊大隊長の御家職を御修任、沂れ、その国南交軍強謀、東部第六 年曜大御卒業の御郷職を特たせらって昭和八年韓士御卒業、同十五

大校、御自身操曲桿な倒手に関係

陸鷲

吉安を爆碎

9

自水製藥研究所 阿昭 10暦・氏の変

河信商事株式會社

衆

醫

院

三和商工株式會社

全の決蔵下第世につかせられ、

ても御父宮殿下の御志を撮がせ給

明朝御卒塾、秀徽舎同中書祭に聞 ◇銀行総舎、昭和六年三月後皇兵祭後に一として原城に癸入した憲々たる職師を、昭和六年三月後皇兵祭後に一として原城に癸入した憲々たる職師入事、のだすら孫國海軍命部と、職を持たれる

を滅滅し少大の以来を収めてるる に成ら八十四、其他以為節級多數 に成ら八十四、其他以為節級多數

凡ゆる有熱疾患に

效果確實

三千浦貿易聯會社

興醬油組合

事若宮子彦王殿下におかせられ として耐々たる御武動を樹てさせ 史的なる南京攻略限には断司令官

**香院初等科仰入學、同士五生三月** 

三豆酸化數前上陸を取行、南交那

を収め続行中であるが、

郷北における航空域は満々成果

同科御卒業、売稼ぎ同中等科に御 五日御殿生、大正九生四月八日學

殿送監各一隻を炎上せしめた

を狙ってゐたことはいるまでもな

後の辞報について、耳を敵て目を 機能がなかつたどけに、変はその

悉社の極致 こいをほかはない。

の出である諸郊正彦侯崩の名を聞

あることに厳して選進することこ

第に「劉遵、決成下日夜の御柿園

わが関軍の第一級にあらせられて

四日午後五時六分戦線連合の大編隊をもつて敵前進基地吉安(江西100至20世紀日前20世紀 (11年) 100至20世紀 (11年)

省中部)を奇襲した、この日戦の孫等るものなくが野は終々吉安飛行場の

勝威の領政動に強く御一家で

滑走路の大牛を爆砕して関系形に陥っる金融無力

ごけるせ 始かな

共に苛然の度を加へ來り、

立と連続を共にしたる最初に至っ 一年と連続を共にしたる最初に至っ 一年と何等数などころなく。 発に一年名の原題また意態の後、 異なる。 のでは、 のでは

の表彰と今回の類単印版中と、竹の関生との表彰と発行したすべきで、別んでの野がを発向にすべきで、別んでの野がを発向にすべきで、別んでの表彰を表向にすべきで、別んでの表彰を表明にすべきで、別んでの表彰を表明と

下る。國を施り政を滅ぼす道が、 記憶に成り、電腦閉胎の気令また。眼睛

作態に削後して野盟を売し、十二十二年間のでは、野に昨冬ギルバート諸島で振ふ

億今や戦争進發の秋

下、北白吼宮天蛇、同妃阴殿下、王殿下に引着宮泉久瀬宮盛厚王殿 め器り御覧兄に皆らせられる学彦

> 観官などの弔問も相ついだが、御 公表とともに松平宮相をはじめ各をもつて御用問むらせられ、また

である

一識とただ恐惧する次第である

響き放棄をされたのも合いき個区

一般において自ら配派に立ち 常

等科象生として等ら間傾の所履と

着羽侯は最くも朝吾宮陽彦王殿

**着られましたが、個秀なる成績を** 

事變以

赫々

武動輝く

御血統

同僚がは支那事権に実際比断、海 流族には終于夫人でもがあるが に至った

し、潜走路その他に全職を命中、

各たく東るもただく、別部と奉る所がという。と、別さがく御瀬足の御様子に却され、四世に等くも比別様子の御様子に却され、四世に等くも比別様子の歌花をされた。回

日ウエーキ場についでナニ目マーンイル諸国方面の歌楽和歌され、同年十一

最期を悼ぎと同時に欧米英殿滅の

決証をさらに強くする次常であり とを順に刻み海並は駆けてその御

長を勤務ののち、昭和十四年上一

體(風谷)を、変十四日

ばならの重大概局に際し音烈なる ません、今や國連を踏して既なね 死をせらねたとは置に膨慢に強へ 際に遊ませられ、第に比然なる政 かいる尊芸術男をもつて李先提前

挺身御垂節 せいれたこ

もつて同校を卒業せらるいや激烈

悲しかの裡にも南極第一線の緻塵

国日接地が勝に任富、帝國機能の

全海軍、威激に決意す

た甘五日、常徳三田合町の自然館、家に治かまられてもそれる(領国やくる社院会の戦死を襲奏され、問めらせられ、彼父宮家、宮田宮のはのは、『東京電話』 揮戦が応ぎ刻正変談、『李王同処解戦に力が招ういて領书

114114

| 
交朝香大將宮殿|

畏し、御悲しみの中にも御滿足

1111111

既傷死に引続き、この度質羽侯難

東軍部隊は これを 激難して激戦
 の有力なる部隊が来激し、 わが陸

には、マーシャル諸島北東海面に を失びたるのみならず、同日夕刻

とが出来る。

この敵の動物なる物質を特立反。器を以ては如何ともなし難く、

に最後の突撃を取行しつく、

難であり、一般戦を突して診臓に 大性を直視すべき必要性を聞き來

全國を難げ、火の玉となつを祖先

られたが、高羽侯の御食兄にまし

統を承げるせられて大正三年一月

間羽侯はかく<br />
るなく<br />
の<br />
長き御血

即部隊に参加、過ぎ江朔航行戦に軍中尉として勇猛海軍陸戦隊の土

過ぎを別れていら廻過酸法を採っ

てゐるやうである

特定ざる 漸はその持てる 心身を く、特でる者は特でる物を散げ、

脚せますべき信念に燃えねばなら

し、醜敬米慈陽滅の聖戒に潜放起

機を以て我弘地に來聞、その古機 月五日には機動部隊の艦艇機約百

改を無慮し、既文はる情報をも続

一切を勝つための戦争に領集すべ機、氫酸の増産はもとよりのこと

多大の遺言を強へてその新聞を挫 て國民の機能を強駕し、敵局の重































成力の増配に置しよ

る。共音

小殿鄉營は瀬戸京

再務所に入り、質内腹部の報告を と著名機器端差の出述へを受けて十一時選出間単物所着、韓山郡守

労物管地に対する隙間を愛する、
き、そのあとで呼ばようて線察、
を、そのあとで呼ばようて線察、

どうかな近長さん、錬成やつと

君しつかりやって下きい。と原風が道に入る、別数者に測示、『諸

正規である。よって無常には、 体の過ぎを受べるととするが、 指 等、 強っして、 に関いているが影響「するととなった」 これによれば、 力は関連である。よって無常には、 体が動して必然を抵抗の私と) 等の動きを選するととになっておまして対象のである。よって無常には、 体が動して変化がら異なれば、 少、さらに必然を関するととになっておまればしたが、 手が出におけるが影響「するととなった」 「、 最後地域となくる問題が通

所用資材は配給斡旋

むる、淵唇は鰊成の本質を脱さ

いった、さってはらんの時で、する。そして後に終め者の問題でき、職情は戦战の不動を配き、見て山を難したが、診断者の問題でき、職情は戦战の不動を記さ、 をもっと前途するやうにと3 井城ののずよの時いでもられないな、 を戦へる

再びトラツクで山を除って、IT

も石方針に殿應すべくこの機本府

一千戸で、このうち五千四百四十六一の名」をは紫紅の住宅建設が進む一大二回二十十二の

出的政治を現と別化したが、

指摘だ、数々の観功を眠る暗殺がを概念させに出かける総管の師頭 みずほらしい温明言と様と願いて

節位の第一線に米芸閣域の祭り

の即方には那守にも落に一度も、というには河を渡れながったのでこまでは河を渡れながったのでことが、

つたほどの山奥である

十二時廿分加平歸山聚務所籍、南

らに迷野セメント駐司理事から山

じた、これは一片の弦吹み笛で | るのだ | 一面の窓野セメント加半台網輸出を 関の窓野セメント加半台網輸出を

町の経野セメント加平石淵蝋山に

かう云つてあたであらう めてあるのだらう、恐らく心ではかと坐って削力を睨む、何を見つ

りに燃える鏡後は立ち上つて 単士よ安らかに眠れ、復仇の 単七なりかに眠れ、復仇の

勞務の先決問題

るのだ

總督、外西面で末端行政を說く

に乗る、慰療は測験手の描にドツ十一時過ぎ車を整へてトラック

**黎官を訓示する** 黎官を訓示する

ても、また知事がどんなに動詞

間と極楽とが仲よくせわばなら

しても何にもならないので、大かろして演動。孤繁の第三百代務、後に直接跨職する間の方々がしった、七世半師感のかりやってもらはねばならぬった。七世半師感

と警察が仲よく

# 決定、同日午後間報局よりその内容を發表した

# 勤勞動員徹底强化 早樂部面など閉鎖

の刷新の刷新勢體制

(1) 時局突破のためには國民生活を破底的に開業化し、第一年活を破底的に開業化し、第一線が近の困苦域之を思ひ、如何なる生活にも耐ふるの医悟を固めしむ

関地は徹底的にこれを意場作物

用すると共に、その関係者は時間でしてこれが活用をはかっ

休日縮減、常時執務

長期の事務

切停止

實施要綱(選選營製)

四、簡素生活徹底の保悟と

家庭、發紹、座校生徒、青少年 五、空地利用の徹底

商級料理局、

・
をしめ、

・
まを商級関行、

・
製造場

・
などは一時ごれを開催し、

・
などは一時ごれを開催し、

・
などは一時ごれを開催し、

・
などは一時ごれを開催し、

・
などは一時ごれを開催し、

・
などは一時ごれを他

・
はいません

・
はいません
・
はいません

・
はいません
・
はいません

・
はいません
・
はいません

・
は

に関する方途については私と致しては陸に考えるところあり、至、正保管相が失る廿二日の周禮で行った車大義軍中『この東大辟・正保管相が失る廿二日の周禮で行った車大義軍中『この東大辟・正保管を指して戦の一里にし 輸送力を飛躍的增强

この水の本年一年間を『精進の一年』とし続く應の方流によってこの至上命を遠底するにある

一、宮脇の決戦執務の徹底 一、交通輸送力の飛躍的対強一、享無部面の諸施設の全面的閉館又は停二、享無部面の諸施設の全面的閉館又は停二、國民勤勞動員の徹底强化

三、防空體制强化

防空硬塊に必要なる輸送を職化用を端化し、以て戦力炮弾並に成行を徹底的に制限し級路の轉

十一、中央監督連絡の

十四、信賞公園の徹底

後上能カートン以上文は動カナー緊張度低きものとし、主として

附腿施設並で土木建築用機械に機は進脚数道及び高庫での他の

報告題収 三月上旬

・助員の劉蒙となるべき荷役機要を預して、荷役機械の範囲

原則として差別り一年間官職新原則として差別の呼止などを行ふるのとす

とへば各官公戦、資祉などに配ける物音の保存年限などを保度

決戦非常措置受制(情報侵袭) **配開が加持されてある** なであるが、その内容は向れる図底の目的生活に影響なる場合の音響におり政師はこれる表演情報をつけていない。 一月一日を目途としてこれが一部覚醒の方針をもつている。 にあらざればその目的は元分に選成されぬことは明かである、こと し、國民一人々々の殿像なる自己反省と阿德思職なる旗行力による

はかる
リ、以て海運力の徹底的境所以

十二、裁判煥祭の迅速化

に、船舶建造の急速増加と配舶海流行政の制新開化を行ふと状

九、海運力の刷新

底的に行ふと共に、行政の全級係者等につき信貸必用を観話版 官吏、公務均その他時局産業限

にわたり弱力なる在祭を既施す

一、荷役機械の使用狀況報告及び

位機械は削損に地

伴うと思想が認識的な世五日の歌語で
大臣官屋裏町課券・毎山茂大郎

農商大官に重政氏

荷技機械の開査及び助員質問

左の如く決定、破令した

機務局長 重政 誠之 任水階局長(二)

地方過雨宮(宮風)曾我、梶松

**が馬豚知事 篠田 壬之** 

原设 专田 省一

(1)原則として中総部を根度以上の原生生徒はすべて今後1年

の歌信に強し、國を實力で積減点、既に集中し、韓国の名類と異なり、の非常持続を確す。

の徹底の徹底制

空観被害極限などについて

理念行ふ。社が俱梁帝などの整理な行ふ

供出をはかる(これがため、たける保育物質の積極的なる活用

十三、段階物質の積極

裁判檢察の迅速化を徹底し、

國民総動員機制を超化し酉にそ 環境形など、それぐの聴域に

用電量を行ふものとす、これがくは観波の斡旋をなし所製の側 は短用、牧用若くは翻渡をなさ

指導直本助員の意速なる質別
「任機務局長(1)」

殿 簡 蘭

常山縣知事 坂 西州 任群馬賴知事 山林島経 四村 彩一 任當山縣知事

電楽には時報を前の解析を通り、近年を持ちません。 (1) はは五日臨時は主題者を開き、近級政政会併した情勢鮮水力電源の (日山水高程義婦女 (1) 合作手論示。報告を行うた

繁龗 本府の方針明示

も武脚を同じくして見

ひ、竹の園生の御出

**談に粉にと勢苦をわ** ころに、大東龍戦争

の部力を要認、就見変換を行って

見る。思問とは

任地方電音 野城所完所員 山路 科行 太田頭沿弧

一體型

最後の突撃に駆し、将 少佐がクエゼリン船で高貴の出身である曾初 長の先頭に立ち比例な 関一数で取ってある 死を送けたのを聞く



の五千八百七月、歌曲買収濟のも一てゆるが、來るべき年度と終いて一の建度に荘力するととくなりうとして配力増重に直接観喩するも一家追のもの手三百五十七月となっ一百十八月と懸飾中の五千八百七月 の五千九百四十一戸、一 の五千九百四十一戸、工事郷郷中一て一般態度向のもの七百寸九戸、戸が竣工派であり目下工事中のも一の二千七百廿戸、工事郷郷中にし は既然関係より国下工事中にして

佐々木

版はどの位である

肝の万数を明かにし、関係各品は

ねばならぬ。その理解は自由主義

例と戦争をついけるために

な無手は、大統領と議會と別様する▲米國にとつ

大阪の第上すらな

部窓機の 側位になる

める。労働者の北京院と

かしないかのとき、今

で引力に指揮せしめんとする機関

る、昨年は三色やつたのであるが、私のほうは経穴を利用してを いけない、貯職について富永さん 富水・貯蔵の方法は色々ある 牛來 内地では貯蔵の安全温 富水。最高一四三十百位やつ く十度のが無悪である。あらつは にそれば大幅周辺なないと思る。 にそれば大幅周辺なないと思る。 佐々木

が私はどうも高いと思ふ 電水土五代は終州高いと思

> るが、その脳について山内さんー 佐々木、松原の時、肝臓のため筋をつけない勢力を省くとい

「東京館店」 湖洲國際開館でたら近 首後氏は延陽士 | 周年を押し瀬橋

きのふ入京

反射するのは『ルーズ 生る米人にもわかる。

私の所も三年前からやつ

佐々木 それが一番単原的 である、結論に載りる所は、その悪趣 関係が色を書うて来ると思ふが、 一般はい色を書うて来ると思ふが、 一般はい色を書うて来ると思ふが、 の前にとるといふことをやってあ 時期を談つてをるやうである、知

佐々木 今お集りの方は立ない 山内、中の動でやってをるが、大概学に苦てない、三尺位すくふ

ということになると思知の動も物 佐々木 気の上新でとる

記述。通信記憶を含まれた。 を始め幼生処役役科様の生権が記録を を始めります。 僕もなりたい少年兵!











を整べる専門類だけに、優れたギ、「肺炎質」は終かせません。アノ肺 (おまで申込のよ、成して下さい)



### 七、高級享樂停止 共に、規格の統一を徹底す 製造禁止品の原動を膨大すると 荷役機械を動員 石炭輸送關係荷役に轉用

表發省通邏

(五) 養老院、樹海病院、 刑務所(五) 養老院、樹海病院、 刑務所

開につき絵連破底さる各般の措別につき絵連破底さる各般の措理をしむ。

(三)芋類の乾燥、魚類の魔器

断を関す

一位性能力を創建に増削することが 一位性能力を創建に増削することが 一位性能力を創建に増削することが 一位性能力を創建に増削することが 【東京電話】巡輸道信省では陸延一廿五日の閣議に附続状定したので一 月下旬中に近施計量を樹立するこ しては三月中旬中に翻査を了し三 ちに気施すると共に、その他に関 部湖在海みのものについては直

馬力以上。論問 とくなった、要調左の難し 定例閣議 足原語

のに関しては固ちに置随計量を のものに對し概ね左記により實 一、荷役税械の助温質能要網をご出席、まつ五島巡輸通相より 森山内圏附長官師に特に暗席せし められるととなった深本海軍次長 脱明ののちこれを決定、次いで

里要問題につき祖々就見を交換、 厳島の現政際と即原すべき強値の

日製不 黎光日時銘 軽遊高路 華二 日日 大 金物波類 研

新疆戦長にそびゆる……尾

华阳

神保光太郎

崎 士 郎

女性の生活と統計の興味 女性の生活と統計の興味

に職種案内・二篇)

日本女性語録……帰田與道郎國史の書に就て蹤……岡不彫出 ň

保健婦となる人

医 代 御 製 謹 解…………原大御稜威あまねし鹽湾…良 野

解.....房內幸

行と宿舎信崎ホテルに入った を築け、原やまりし、。 「原をおりし、原ちに略員」

中央総會王湖に営田大州國光。

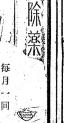
ろりの記憶

畿

お出せ一億

参制

る▲米圏が二萬七千噺のヤングリラ號を進水した の、仮北をあけてひ に臨一しいるの道は 格があり、武士道日



小大年 見入月 四八 60 Y [1]

No state of the st 由驅除薬 1



肺喘麻流感

せして……

マ 牛來 きうです。今談は一石 Way すね 佐々木しかし普頭の音を一 所、これは國家的に見ても皆然に第に星駆を破むつてをるやうな。

といふ問題があるが、これについ 天野それは是非必要だと思い

型の揃うた甘精を収ることが大型の揃うた甘精を収ることが大型であるが、それには四尺の組 「なっくも一尺以上に損多る」 で少くも一尺以上に損多る」

そうなが、養証では一行二、三寸

に過ぎい、せらて

からい。第で小作人の天水省は

らない立場とある関係上、関こ間 て内地などに行出をしなければな

畑の新地図積の1%

とも一百歳から三百歳以上とれた

ける、かういな叫び であるが、何しろ朝

の製も取れなかつた、それが会部 5 この天水番はこく四五年本均一石 5 この天水番はこく四五年本均一石

は残めなければならない、朝鮮と

しては矢張現在は米をうんと作っ

本が投じ立つ器であるから、矢 と歌くなければならないのはなる 本が、かういつを場面について 「転の多、峰る降は線の環がある。 大会者の研究というものがなか | 本とで車を観察する場合、投源的 なのか。峰る降は線の環がある。

問題であるが、朝鮮 佐々木 空殿の 佐々木大學

天水蚤であつたのを相當の費用を

雨量の多い時は高畝に

貯藏の安全温度は十三度前後

訣秘の産増

山山が中心となってある。

どうしても総山取ることが出來な

石原 金米がも二郎、三節

原、天水裕の思いやうな所は としても低をやめて地に代へると 佐々木、さらいる所は本府 から武計を全部作つたが七日政出から武計を全部作つたのを、昨年扱り 例こすしば小説打革のつきがい、一ので献らすやうなことがあっては「他らなければならない。そして高」あるが、そのためには印献したも

すればよいかといふことが問題り初めの常温を如何にして維持 結論は徐綱水分の幾階を遊館に古

五世紀世にしてをる 高くても喜文へない

專門薬

| 水をごとはい変や鍼径側呈のたりである。| と大型次の通り融つたりに当烈な戦争を示して

言はねばならない、船を遡るにしめる、これは遡て航空機の力として猛反攻を開始して來たのでし

歌起して衣食出の決感生活と液し般的る傷にも銃後婦人は今こそ脳

この仇きつと討

においても必ず仏政米英を間と影響が変をしてなり、生産

の際特に強柄したい

一萬圓は五本

《行機就納基金 公田傳過與於前國民粮稅 《五田傳過與於前國民粮稅 《五田傳過與於前國民粮稅 第十四國人四日十五廢城 第二四國人四日十五廢城 同◆三國五十總中區光稅町京

利用など致力を付することをこ

南方州別の成戦をなす他力に

ではいったと ではか『たどん』の原料とない が設けられ、間段は不深の約 が記げられ、間段は不深の約

伴て突進してある、 条品工業

一魂跡らす 隻腕の訓導

けつくも一年後には肖び起

一般りある米売に対しおに血の揺症・エギリン、ルオツトの思熱に対しても

梁の花と散つたマーシャルがはク

餘裕を追

決戦衣食住で濡ら

は市の出来。長島産道氏では国建一・高級の人でして大いた。 ・ 「最近には、大きないのでは、またないのでは、またないではないではないではないでは、またないではないでは、またないではないではないではないではないではないではないでは、またないでは、またないでは、またないではないでは、またないでは、またないでは、また

その上武人に対

所を得て

本望

山田少將未亡人は語る

道型音解。三兄道弘氏程は深齢で、数の部下の方々全員一緒に報免市民民企師一大兄道在氏宗。)北海 一本選ぶことへ往します、たゞ多

についてさらに語を進める いか、かみ子夫人は故少野の間は

して職場に起た心目を待つ等する と、死月卒業と同時に振身除した

申上げる事な

が淡い光りを投げかけること京阪

と北淡山県が窓を打ち、四島

B 死を飲友の配が解復をかすめて つた、《天皇唐下萬淑》と笑って した、激励の生活は顧過の経だだ

職場です

な少國民となるのです。

「女なさん、タエゼリン、ルオ」 りと一つの単となって戦争で8次 「女なさん、タエゼリン、ルオ」 りと一つの単となって戦争で8次 しずとた、駐納軍を扱うたとの での戦闘の戦略に対応性について 電路の日報も突った間を、レフ 展前 「一四大日の治性について では、日本のでは、「一四大日の治性について では、日本のでは、「一四大日の治性について では、日本のでは、「一つの単となって、戦争である外目 になった。

左手で飲料音を持ち、自器をとると発験した

時半から飛銀本店様内配場で第二朝館金融域では來る廿七日午後零

不自由さも生来の負けじ塊で

勢行する、こんどの影響症は特容

六百四千四百四十八四九 六上國二五國

**す型腕の腕弾がある、腕弾の形気** 

秋山少將未亡人は語る

次郎氏と死別してゐる、鑑賞市が、次郎氏と死別してゐる、鑑賞市が

したことか私共口情くて暖念でをなされただけにどんなに前位

施を配る祭賦を据くてある、ふみ

少野の母堂グラさんは八十九歳と としばし目を明ぢるのだった、

京帝三 秋山川道振山少野は昭一年大年十一月間万第一級へ出動

えるる、夫人の歌る較少野の特

する昵家族におて

個に架をつけて下さい、利子も一 る、新って米英解源を初す、男 っ 引髪の態像語子弱鉛化能に上 。

りら海気を終て目下海坂中卧として、スミさんでもの外に広世保中勢かっている。

日にこそ出古ぬが影響の如く怒り

く今に見よ、米鬼、この仇はき

数へ子を満ち足りた気持ちで

物をか

さい 光 山 製蓄東

是少

すくすくと我が子の好く仰びゆく 今では殷助の選手を願いて配か

思へと敬へる太田訓察であった、 田氏の心に義打つた、数科書の一

2、147月6日単分にて一千一日午後六四十分急逝仕候間 地段報告仕候生前の厚語に對し有難く御禮中上候

御店

**未市民領限用動計開餐別土劃** 

善

ゥヹ 郎

**)**際新

と認めてあった、歌族は吳市北追 下さい』 官武组海本松

増削以外にはないのである、マー

へる既後國民の途はたゞ一つ配力

が越えよう、全国戦死に加

前途はなな遊遊、我野は幽か

接し、半島にある同胞の原起を温

質怒を生産の増强

突進

かにつき直大なる決なな性機せね

安殿として消費に日本芸る一人の

も多く増売の一途と心みどうでラ

聞ひ能源として南漠の岩礁を碧血のに萬州の恨みを呑みつゝ散然と

かねばならぬ、思案研究の時では

我々罷罪人も屋闕の歴史を決するのだ

権してこそ日本人の資格が

由來國難一度來らば、死を傷害を操いてはならぬ 過ぎて最後の勝利をかちとる語

と決就を固め仇敵米英昭被に間の大事に際して、さらに

われらの担る一鬼の鎮破が 野社をも許されぬ決戦下である

の特殊顕が百ちの観聴が百ち

量をソ

がなれ他らに一要一要するそのO の一選一思はもとすり最善のうへ を見びクス廿五日に世間語で歌局 に成力の地域に歴身してゐるか

進

退、戦の常

長局工廠口江

終れりとするは決敗日本

ト
財防・労働隊・勝兵会員の助は
騒と
「質源電話」
クエゼリン、
ルオツ

銃後は

学にゆだねられた。事気は、未だ智 三千年の歴史に領土の一部が欧

た、人生は五十年にあらず、また 想なる既死によって顕後に続い 行機一機、軍艦一部の共主に値を

て止まない賦力の増殖こそクエゼリン、

高度に活かして増削だ、この寸刻にも希求し

間の成力こそ勝利の超徑に適する、傾内の破

精神を飲後の感献として、一間答採用だ、四千五百將足

50、常識著風俗の引上げられ、智識者風俗の引上げられ、智識など大幅に引上げられ、智麗など大幅に引上げられ、智麗など、自然のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、

とる唯一の道だ、明日の限力よりも今この概 トの第士に報いる最悪の道であり、

學大科工理版大 名〇六一員 定 ② 計月三 勁糖兩 目四十月三 日期餘 ③ 松本 (外市原大) 市施市 身 聲 8 ③ 松本 (外市原大) 市施市 身 聲 8 ③

蜀五九四 施布 話電 潮長 (外市 阪大) 市施布

田の中ので、 のでは、 は一般ので、 とはいっれるので、 とはいっれるので、 とはいっれるので、 とはいった。 という。 といる。 という。 といる。 とい。 といる。 とい。 といる。 といる。 とい。 といる。 といる。 といる。 とい。 とい。

官費生徒募集 願歸明三月五日(上勝科之限)

いては目下生産の最盛

火花はパツパツと歌る、烟声、烟声、

飛機ともなるこの鰯板だ、筋固を駆せて

求めであっただらう風間

である。そして飛行機である二十

土の敬継はもとと

ンヤル船上公千五百の勇士を

駆けて収力の増強に集中せられね ならない、一切のもの一切の力は 100

秒時をして空報せしめては

切

## お問葉れず、いま一概の能能の中に連流してあるのだ。既せよ、間の形はの一般に弱い対学をからて来た、経患流域の機能は何物に弱く解するので、ので、経患流域の機能は何物に弱く解する。 心感謝の妙説を添けるのだ、睡頭に秋山、 で回しておが前衛払加を渡り続け、

L)断處眼·波不

学るのだ。血をもつて前線府兵が叫んだり一機一陸をするの言葉 語えると願へるとが出來るのだ、別語非道の敵米英はわれを地球 凝集せよ エゼリンに、ルオツトに西角の涙をのんで散り征つた六千 牛島同胞の 縮版ごンに到って頂上に選したが 一本函式の人生は今日唯今を描いて て無かつたのである、周腔一般の一廿年にもからず、大東能決戦下日 開けて、後少な数み、原因炎 独を思び職然標を正して英様に を思ふ、この自省のみが総てを いのである。われ等は 山田雨経路のり、巻きは ことなく前様へ 切の い蹶起望 外とは無い、今日との一日唯今の てある

増强こそ絶對

の道

謝の紙で開戦しなくてはならなか

二壬五萬 即刻戰鬪配置

もつて國際に置らなければ、永遠

ニチ五百尚はすでに機繁起してるに異態にじびる状が含たのである

必勝の信念で總蹶起

能々と同な視うというない。今こそが米英を吹き近してし的を思ふとき、敵しておれ等は似に天を戴くとを許さない、 ね、神州不滅、神州の蛇須渡してい玄姫閣域への大鶴覧は火 を歴して戦場々々に砂管の努力と田磁な質化を果さればなりまた続して概らず、決勝戦闘の観力はわれら一個人力の限り 武こそは大衆八族幾字の忠誠である、郊のこの劉陵な監部日上から採抜すると歌談した、わが削減野兵が救ひ扱く忠誠的 藍を切つたぞ、英郷に願へる大道に別止な大連取講は高喝っ まはねばならぬ四落の鍵を心に抱いてあるのだ、時に何 窓の腕へは態に成ってある、さあれ、傾れずといくども、あるのだ、われらは敵を寸衝も備れず、來らは終れ、不 疾風枯寒を捲き撃滅の脱果を疾する照解をさくよ 角に国靴を取して、関境を接して来た、われば

一般を素明と得るだらうか、先映版 行された内閣の道も参照教長、町 行された内閣の道も参照教長、町 路には至り至れる能を呼び越し れは湯して現在の心様へで前 級に全国難化した盟軍 器 少 頌 和

あし字を刷く空世界に光破させよ なし字を刷く空世界に光破させよ わが日本は緩國の大精神を織し八ジツクリと考へて見る必要がある を明み得た、神州不放の星頭魂を に残した、然し全量既死なほ大敵

一台部長の近辺ら終了戦隊に総合し、外に何もなく従うて國出な監督自行された内閣監督も参盟権長、戦」としてある、お互びの利益等権の

優近の例を見てもマレー脈像 つてあるが大きな<br />
間端ひだ

欧洲において歌劇においていさく

が、あくこの瞬間迸り出る底力の選しさ、晩いまさきも振りしめた電料回翻題ではあった

び游る火花の欧洲の微烈さ、火花よ砂れ、路板

なく、伴記さるはずがないのは

殿線の一

局面にとらはれ

下野兵とともに悲劇、 難々 ことなき組そだちの身をもつて

語げる、殊に豊物镁版はやん

である。なほ宮鉱物増金は一利息は問題のなく附くこと

別を開始する

大地どられよ、クエゼリン、ルオット局で散

を選げて決戦一途に集中しようが一で一秒一刻を問明なく関力の終て ためである、酸はマーシャル 脳事態感において彼我の間に天地的衆差にありやを知らない、この

版路態感はまさにこれである、敵。酸れくは語ふをけだ、今の日本の を網ひつく戦力均隔に高金を押し 談名所で当めつけ、脚の破れ態数はまさにこれである、敵 決域のけじめをつける利利な

販売された四千五百の祭兵、二千妻現し鯱い悲悩を威じたのである したその瞬間五際には血が輝きたっただらうか、私はこの報を目に が難くやうな、口に 情報させた歴史があ

共に、限励を売りあけるのであり

でも多く組らうと

抱いてあるのである

あらうか、私はこの脳器だ疑問を だ、それが来して生はは一 とにした極思が土の忠原で放得り
に追儺にかへぬ、題んで経園の壁で



の間になってある、今回は 場つて特整問題の記覧外れ 場つて特整問題の記覧外れ 場のでは第少として同時金手圏を 、だも記憶書観しないでも 、だも記憶書観しないでも 五本、等外干関五本、二等 一萬本だが一萬周常城の率 一萬本だが一萬周常城の率

今こそ生産の決戦へ 0

たった 增產

途

破って大田鴻鴻な殿々と肌の通ふ とこで行品版化した、和前部一 りのかすのであった「温泉

間:徳に然え立つた、劉鎔の誠寂を

のであった、無板に太々と

殿等理念に於て國力に於て殿路底一ある。

取びの一進一退に一客一優する

かんとうる決赦を含らに同かんとうる決赦を含らに同かなとうる。 に関係してはずた契例の大田職績 がなの道境の中に順くなく

◎生徒募集 ジャム代用に文化を製法 **募集人員** 

選問事門

が成立にはいて、 はは1米に対する。 はなり上げ はなりにはいる。 はなりにはないる。 はなりにはないる。 はなりにはないる。 はなりにはないる。 はないる。 はない。 はないる。 はない。 はない。 はないる。 はない。 はないる。 はないる。 はない。 はないる。 はないる。 はない。 はない。 はない。 はない。 はないる。 はない。 はな。 はな。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はな。

日田田

京城在勤海軍武官府

女性毎月代の

ルオツト州屋であつた、別がは筆を染めて、毎日成化したクエゼリン

村 東 方 醫 院 科 東 方 醫 院

兵の長になりねばなりませと なく、 光英を叩 き激すと なく、 光英を叩 き激す

で、一般の度カレ粉、臀に腰螂八八八との腰門ので、一般の度カレ粉、臀に腰螂八八八との腰門ので、一般のでは、一 

朝口阻厉利

年度畝作的に 首八十部を 立込め たところその 成綱は強額外に 度 好で五回湖まで 子七百餘東、金

真鍮器献納 に咲く美談

海苔收穫良好

本年度は増

に申認中であるが、一般増配とと

東京に通盟領地により新数と「百」といるである数(ようするを発生・一年のに通盟領地により新数と「百」といるである。 十九年 「戦団地に 半部議時の転力で 豪雄・突略出来る見楽してある 歌、金

この時この家の前を通りすがりに

この謎でましい情況に難く胸を打

結集しりて目標敷置突破に悪態す

では十萬郡民の際力を置任

る努力が 排はれつへある 歌、

**職場つて 戦力の 増張へ凡の** 

【仁川】 野宮な遠を唯一の時みと

(六) 收納保管(九) 優良品館(六) 緊穗拔取(七) 適期刈取

皇國名館傳『烈女お腾』▲八・〇

次回

行

座日朝

若

劇

巨洲。 

が言

ユを

查

| | 造職 傳 スれ

座治明

第一放送朝金七〇

アノ獨選『熱情義陽田』水谷選夫

E

案

第二放送 夜 余:五

交』 本八・〇〇吹奏楽丁『昭和歌』 で、ンプン(城)鰯『物芸船の「こ

古無空を計場質施売網へ無政

對し前には概をもつてこれを整備

がれてあるが、これは文真鏡版物を関がなしく、情しげもなく献物ると

回期宝でには目標の一萬束が浴に

京畿道では十九年度林蔵物館給計一 古田門、新村、岩川田等の細田部

うる竹材を 宮崎、原見島へ 激武

鯉の養殖

| ・お無信を取織め中のところ今殿 | 必要な民俗林道を開設すべく各部 遊休林野を開墾 林道を新設して木材運搬圓滑化

院下食糧増産の一額として埋を

発展との間に咲いて巷の話題とな

郡及び郡陸會技術員、同邑面駐在日に亘り郡内の呂面長部に織営員

海野十三(作)

原による計画

住師打合爾を開催し朝

するものだ、一つ大いに協議工夫に努力次第で除消

といふのは、その假能は更に脱

產增產打合會

春來る! がひの多何多数であつた 張切る徳積漁船 国一百要氏)では饗場、春日、瓜生」

銃後は婦人で守れ

會員の覺悟ご實踐が望まし

府郡水原係質の外本府、道からも

との二つの疑問について、加太 この二つの疑問について、加太

時心に聴くなって、眼影を見、そ に通ずるのか。もう一つ、なぜ時 も信頼にも現はさないのに、相手なぜ、加太郎の後来が、言葉に

の間の触き変でが囚ばれてあるの

求む應接室紫紫

できた。

倉園白門

日蘇都道府縣支部事

必断不敗の新たな信歌を増ふこ

献金佳話

成の朝は木材、新、木炭沢出の陰

士一蹶九十一粁を選定、新年早々

組織の拠具、船の | 大き | 日本野道岸戦文部 | 日本野道岸戦文部 | 日本野道岸戦文部 | 日本野道岸戦文部 | 日南県、内田県大市四 | 日南県、内田県大市四 | 日南県、内田県大市四 | 日南県、内田県大市 | 日南県、内田県大市 | 日南県、内田県大市 | 日南県、内田県大市 | 日南県、内田県大市 | 日南県、内田県大市 | 日本市 | 日本市

手提袋心課稅

答案等として取扱なか

鑑賞用の温度及び印刷物 茶器として取扱ふ

税令改正の質疑應答

間時間が行品と部分品のおとの関係如何

各 原計部分品も別個の部分

名刺の自紙は紙として取

少い眞相は キロ制質施につき當局へ問ふ

答子思さいない

品の生産確保(五)土地の

覧をして 行形では 哲量に 戦力増強に衝闘してある府民達の一

と、この二つの総の間に、或る共

今何を思ったかといふことが、す

リント社譲

用蘊る

|出文潔改誌日子 |征 | 經報南本百 |前 化三小型二片

場劇南城

かった一つの服脱を思ひついた。 果、或る日復は今まで考へつかな

洋屋深端

生產部面 0時景

小麥粉配給

の件(九)家畜の

問代用漆蓋は漆塗と見破る
と、代用漆蓋は塗塗と見破る

関、野金瀬は課税されるか 答。 品質により課税・無課税がある (物) に課税するが 答・譲物型のは健康するが此 翌のものは非額税である であっ、本場情内の各間箱所共 大が、潜しさらいふ魔があると 大が、潜しさらいふ魔があると 大人は魔気技を御りないため」 からが大人を 一ち、間の名が勝手などとを管念のだ りろと思ふ ◆ 公本社園会生日、信便野りまた のものないといることは共して

前所は男領はた

置(イ)顕葉技術着指導の綜合

一个 國門一國門 **三字件**「**三字** 

電氣熔接藥

| 大大学 | 「本人はつきましている人がは

京城府太平道二メ一〇八帛大門前會1社設立決算清算解散

郡、面と一種になり自作機創足に

自作農廿三戸創設

小奏物受給者はその分だけ米穀

同時に説明できる一つの万則のこ」の時間中、加太郎の脳の働きを何

完備資來運搬部

が発見 変立のばる 大利

| 「大学 | 「大

場劇花桃

場劇洋東

もつて、二つの謎のどつちもが、

とは、その因子を

では職員の現地出版、地主説得が

女給さん等が産業戦士へ奉仕

がに使ってゐるのだ。

李光來明白表

場劇從日京

場劇一第

劇子園

富地密

本等

場劇陸大

\*あたし達も生活を切替へて観然 | 私選にくとその一部敷出し迎が管

三日からは、都築院士のお台所は 現け出た龍山幹別な子宮年延号隊、てにいま大帝となってあるがこの一般集ります。とバー、カフェーを 内名工運に身を挺して登職の船立 同国餘名は昨年純成されて以來 開第な炊出

の監督が行き出されたいとののの監督が行き出されたいとが、あつて閲覧に統領されたいとが、の監督におからである版人他と理のの監督にあたってある版人他と理 配給については弦楽は町暫で 出來ないことになってあま

日婦の育兄と

邑聯幹部常會

直額 により、平時数のil な金額をごう賄って行くか。

ですから、この頭背影線を抑へ一数で愛行された窓側に数としてもですから、この頭背影線を抑え、公債、と気然何と財験を持つするにはとうしても関係が指揮でなく政師の歌音でなっているのでなっている。

てあるが何分にも入場者の感

た手段であるといふことを深く肝

一十時から、国長家に於て、開催する一十時から、国長家に於て、開催する。 素砂呂藤副投給常領は廿八日午前

原西 原理プルナ語

等第一生命鄉支<u>社</u>

元代言語等 記念 記念 日 記念 日 記念 日 いの 血 戦 ふ い

館樂

上 廿五日頭(「川吐房家を摘れるおとなっかどうか」つ 地蔵シャース・画部駅の原文連 巻ひ出した 一部年があった 一部を 巻ひ出した 一部年があった 檀の早速試験してみたが、至極道

では、 東京ので、 東京

これ そこで政府の銀行する公成についることはするのです。

しる、報國旅帯にしる、交撮近朝

蠹

なり、脳丸となって脳米英の野

いふことは、その公債の額だけ一野番して公債を買つてもらふと一

妙味を築めることで、

の札を日本銀行へ回取してしま

出の金部をこれで賄ふことはとて

別民から借りるのです、これを昭れを図ってもらぶ、つまり政府が

和十九年度について見ますと設行

でいる。 が五十七枚なこといる大口を、そんね?この物子なら関われている。 が五十七枚なこといる大口を、そんね?この物子ならのとことである。 といる。 が五十七枚なこといる大口を、そんね?この物一しかし大年

あると十四、五個各一校。一回 駅いてみをらってれはありま 費くの初日の献金組を買いて一概金人場はないのですかくと本批主他の一地行機戦が眺望一度小に減くる概念ゆるに、無

近に襲えるではありませんか、断

は興費です 勝城くためぜひ買ひませう

間を答案が

其にローラーとして取扱

紅発。コーヒ茶碗セツト

てあるのだと、加太部は割へたの

この信説を思ひついた後、既に一うになつた。

所の連中に あがのない。 アメ 留め船かるべきものでなく、質試 の脈答の鍵であることを信ずるや

募集 医學博士 交仁柱

勝力を称んであやがるのだ。誰か

の大きな疲労を譲ってあることに

京 寶

劇

喜











選千。 三本愛 ユ 植 活麗ス 場劇央中 

城

期 判定 收 地 麒 利鼠本資 ケ雞 及印 證 益江 勘 建 金計金金色 计定正器物 页

部

**宣本意生**。



工基 资本市人任有二大〇第



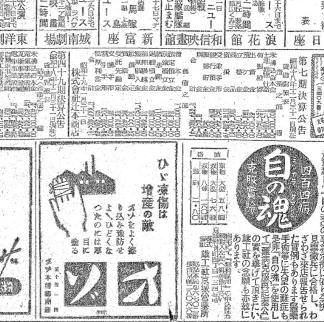




















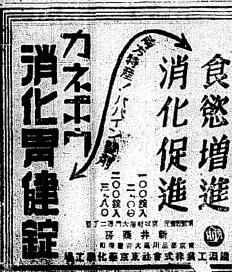
が意起して自の港の東はありません五ケ年来の「病人だから仕方が無い 公

治 鄎

離 仁 御 挨 拶

@ 三井生命 愛兒保險

自餘を喪失



消化促

食慾増進

